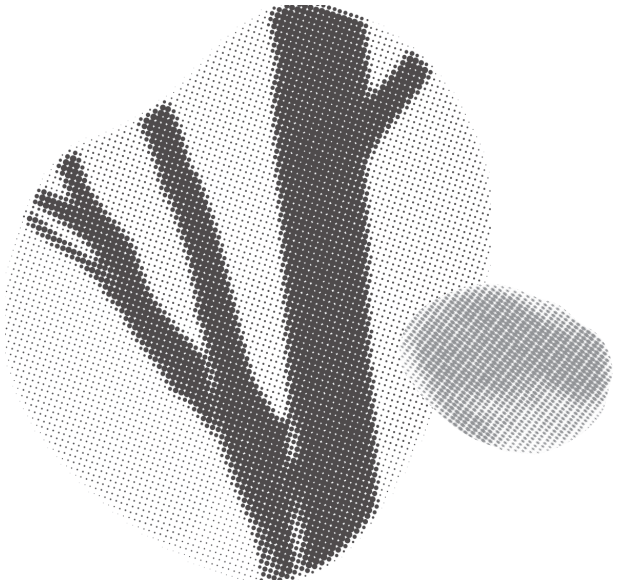
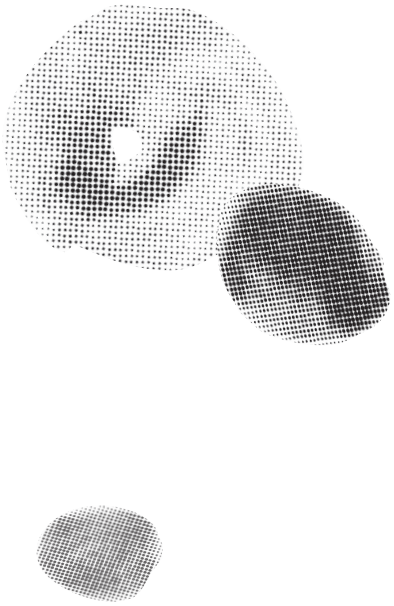
No.55

けやき





特集　左京区で文学散歩を

REPORT　左京図書館読み聞かせ交流会

図書館友の会けやき　ニュースレター　2018.2.5

特集　左京区で文学散歩を　—左京図書館が提案する『京都・左京文学散歩』—

左京図書館の新たな取り組みとして、昨年10月末に小冊子『京都・左京文学散歩』が発行され、カウンターで配布されています。左京区が舞台の22の文学作品と利用者を繋ぐこの取り組みについて、左京図書館司書さん、そして利用者の立場から紹介します。

創刊！『京都・左京文学散歩』—左京区ゆかりの22作品を紹介

京都市左京図書館　神田千砂

「燃えさかり　筆太となる　大文字」

この句の作者・山口誓子氏は、左京区岡崎のご出身です。自然と歴史と文化に恵まれた左京の地は多くの文学者を生み、また様々な文学作品の舞台ともなりました。

山（比叡山とか）があって原（大原とか）があって川（高野川とか）が流れていて、世界遺産があって大学があって路面電車が走っていて、古いカフェとオシャレな本屋さんとマニアな古本屋さんがあって。左京区ってなんて絵になるんだろう…！と本当に思います。作家の諸氏も、きっと同じ感慨をお持ちなのだと思います。繰り返しになりますが、左京区を舞台とした物語のなんと多いことよ…！

というわけでこの度左京図書館は、左京区ゆかりの文学作品を集めた小冊子を発行致しました。『京都・左京文学散歩』です。左京区が登場する22作品を紹介しています。下鴨神社や京都大学、出町柳や大文字山、大原の里…。作家の目を通して描かれた左京区は、なおいっそう魅力的です。実際の風景が目に浮かぶ読書体験はなかなか得難いものですし、その本の舞台でその本を読んでみるのもステキです。

『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』の主人公のように、京阪電車に乗って出町柳駅へ。『出町の柳』の薄幸の女性に思いを馳せつつ、加茂大橋を渡って『下鴨アンティーク』の舞台である下鴨神社近くのお屋敷街へ。『有頂天家族』の狸一家の住処である糺の森を抜けて下鴨神社にお参り。橋を渡らずに東へ行けば、『八月の犬は二度吠える』のキーワード・大文字山を眺めつつ、百万遍の交差点。『追憶のカシュガル』で色々な謎が解き明かされた進々堂カフェへ？いやいや『クローバー・リーフを、もう一杯』『太陽の塔』『左京区七夕通東入ル』等々、個性的な学生を輩出した京都大学を見学するのも面白い。もっと山の方へ行けば、『神様の御用人』のモデルになったと思しき吉田神社。そういえば『鴨川ホルモー』の伝説の儀式の継承は、この吉田山で密かに行われていたのでした。『寺町三条のホームズ』の葵ちゃんのように、高野川・鴨川沿いのサイクリングロードを自転車で、洛中に遊びにでかけましょうか。それとも郊外へ出て、『大原御幸』で描かれた大原の里に遊ぶのも趣深い一日となりそうです。

如何でしょう？この冊子を片手に、左京区のあちこちを改めて巡ってみませんか？見慣れた風景の中にも、きっと新鮮な驚きと発見があると思います。

もちろん、今回で全ての「左京文学」を網羅できたわけではありません。第二弾、第三弾とより充実したものにしたいと考えていますが、それには市民の皆さまの知識と情報が必要です！冊子と同時に左京区小説の「情報提供カード」を配布しています。こちらをぜひ図書館にお寄せください。ご自分の文章と感性で次の「文学散歩」を彩っていただけませんか？皆様の左京区愛、お待ちしています！

書を持って町へ出よう！

―『京都・文学散歩』利用者からの感想―

「文学散歩」で思い出すのは、学生時代に友人数人と一緒に小説の舞台となった場所へ旅をしたことです。『潮騒』（三島由紀夫）の神島、『城の崎にて』（志賀直哉）の城崎温泉など、私はもっぱら、海の幸や温泉が目当てでした。しかしその場所に立つと、小説の中の光や空気が目の前にあるように感じられたのが、今も鮮やかに残っています。あれから二十数年、近頃はそんな旅もとんと無沙汰です。だから住んでいる身近な場所を取り上げたこの冊子を手にして、なんだか心が弾みました。

さて左京区の登場する文学作品といえば、古典に始まり様々ありそうですが、『古都』（川端康成）や『細雪』（谷崎潤一郎）がまず浮かんで、最近『鴨川ホルモー』（万城目学）を読んだくらいだった私は、冊子を開いた途端に、ふわぁーっと新しい風を感じました。吉川英治、水上勉、林真理子といった馴染みのある作家だけでなく、今まさに活躍している作家の新しい作品が、数多くそこに並んでいたからです。アニメや映画にもなっている、全22作品のラインナップを眺めながら、私はなんと贅沢な場所に住んでいるのだろう！と改めて感じました。

各頁には、本の表紙と登場する場所の写真、それからストーリーとハイライトが短くまとめられています。この文章がまた、ユーモアたっぷりで、図書館司書さんの熱い思いが伝わってくるのです。

「進々堂で珈琲を飲みながら『追憶のカシュガル』(島田荘司）を読むのがいいかなぁ」

「息子（高1、バガボンド大好き）には、まず『宮本武蔵』（吉川英治）、いや『太陽の塔』（森登美彦）で叡山電車もオススメかも」

などとあれこれ考えながら、これは寺山修司の「書を捨てよ」ではなく「書を持って町へ出よう！」だと思いました。『京都・左京文学散歩』を手がかりに、一味違う左京区の魅力を探しに出かけてみたくなりました。

（佐藤）

まず、司書さんに聞いてみよう！

―『京都・左京文学散歩』の創刊を得て―

けやき　永井麻里

昨年６月、左京図書館の職員さんと図書館友の会けやき会員との懇談会の席上で、今年度の左京図書館の新たな取り組みがいくつか紹介された。その一つに「左京区が舞台となっている小説等を集め紹介する小冊子を発行する」とのお話があり、期待を膨らませていたところ、うれしいことに、10月末には写真満載のカラフルな小冊子『京都・左京文学散歩』が完成し、秋の読書週間から左京図書館で配布されるようになった。

「この冊子を手に、いざ作品の舞台へ」となるところであるが、この冊子の発行に触発され、合わせてこのようなことも思った。「もっと“図書館で”、“司書さんに導かれ”、本の世界を旅したい。知の探険・冒険もしてみたい 」と。

以前から左京図書館でも、毎月のテーマ展示や司書さんのお勧め本一覧の掲示・年末の「本の福袋」など、司書さんによる本の紹介が様々な方法で行なわれている。しかし、私自身、最近は、図書館での滞在時間が年々短くなっていて、そのような展示をゆっくり注目することも、じっくり時間を掛けて書架を巡ることも、以前と比べて少なくなった。インターネットや新聞・雑誌等から得た情報をもとに予約した本をカウンターで受け取ると、そそくさと帰宅する事が多くなっている。タイトルや簡単な解題だけで選んだ本は失敗も多い。禁帯出本が並ぶ参考図書コーナーでの調べ物も滅多にしなくなった。インターネットで得られる情報が、玉石混淆であり不正確なものも多いと知りつつ、つい手近なツールに頼り済ませてしまう。

我々の左京図書館は、施設も蔵書の数も小さく少ない。しかも利用者数・貸出冊数は市内で４番目、伏見中央図書館よりも多い。「左京図書館に行っても目当ての本がない」という声をよく聞くが、先のような条件・事情からすれば当然そうなるだろう。ニーズに即した、より規模の大きい蔵書も充実した図書館の建設が望まれるが、現状に嫌気がさして図書館を利用しなくなるのは、余りにももったいない。

京都市が設置する左京図書館以外の18館からも本を取り寄せ借りることができるのは、皆さんもよくご存知だろう。京都市図書館が持っていない本は、他の市町村立図書館や都道府県立図書館、更には国立国会図書館からも取り寄せることが出来る。それらの図書館の蔵書検索は各図書館のホームページ等で個人が行うことも可能だが、取り寄せることができるのは公共図書館だ。タイトルで検索し当てずっぽうで資料を求めることは止め、まず身近な図書館の司書さんに相談してみよう。司書さんはプロのツールを駆使して、我々が求めている資料や情報を膨大な資料の中から見つけ出してくれる。

「左京図書館の司書さんは本当に忙しそうで、何か聞くのも気が引ける」と言う利用者も多い。中央館より少ない職員数で京都市４位の利用者数に対応しているのだから、当然お忙しい。しかし、初めに述べた昨年の懇談会で、司書さんは「職員に余裕があり、子どもの来館が多いタイミングで、突発的におはなし会をしたり、カウンターから職員がフロアに出て（フロアワーク）、気軽に声をかけられる環境づくりを行いたい」とも話された。『京都・左京文学散歩』の冊子づくりと合わせ、多忙な中でも積極的に本来の利用者サービスに取り組んでくださる姿勢が本当にうれしくありがたい。

これらの取り組みを通して、左京図書館の職員さんが雑務に忙殺される事なく、利用者との有益かつ温かい交流がさらに育まれる事を願う。

REPORT　2017年度 左京図書館 読み聞かせ交流会

毎秋、京都市左京図書館主催・けやき企画協力で開催の「読み聞かせ交流会・絵本入門講座」。13回目を迎えた今回は9月29日、10月5日、10日に連続講座が開催されました。

第1回　えほんたいけん・えほんたんけん ～えほん表現のひみつ～

講師　中川あゆみさん（名古屋女子大学講師）　9月29日

今年は、絵本の表現の工夫や仕掛けのお話の後、参加者が実際に絵本を手に取り、見て、考えて、感じるワークショップ形式で行われました。

講義では、色々な絵本の具体例を見ながら、絵とことばの関係や画面展開の方法を学びました。

・絵とことばの関係は、互いに補い合い、助け合って一つの物語世界を伝えるもの。

①ことばでは語らないものを絵が伝える方法、②ことばで語られることを絵が説明し膨らませる方法がある。

・画面展開の方法は、次の４つ。①方向性；ページをめくることによって、物語は展開していくが、例えば、その進行方向に登場人物が突如、立ちはだかることでネガティブな状況を表現できる、②人物配置；物語の状況や登場人物の心理状態が順調なら真ん中、不調なら端、角、下の方の紙面に配置、③人物の心の内面を絵で表現；例えば、ネガティブな状態の時、人物がシルエットだけだったが、状態が改善後、にこやかな顔が描かれている。④枠・はみだし・裁ち落とし；枠は制限や束縛をイメージ。はみだしは、事物の一部を紙面からはみ出させることによって、絵に広がりや動き、勢いをもたらす。裁ち落としは、身体の一部などを切り取ることによって大きさを感じさせる。

この説明をもとに二人一組で一冊の絵本の工夫や仕掛けを探し、発見できたことを発表。その際、絵本を丸ごと味わうには、書誌情報がとても大事であると教わりました。作者等はもちろんのこと、出版年月日、刷数、さ

けやきの本棚 No.55

ありがとう、フォルカーせんせい

パトリシア・ポラッコ作・絵
香咲弥須子訳　岩崎書店　2001年

トリシャは小さい頃から本が大好き。でも、字が読めません。トリシャはLD（学習障害）のある子どもでした。字が読めないことで、幾度も悔しい思いをします。そんなトリシャを支えてくれたのは、優しいおばあちゃん、そしてフォルカー先生でした。ひとりの女の子の努力と、彼女と向き合い温かく見守る大人たちのお話です。　（左京図書館・M.N）

らに翻訳本なら原書名、出版国、原書出版年をみることによって、作品の分析・理解・解釈につながります。

絵をじっくり読み解くことで、表現の工夫をたくさん発見できたり、作者がこんな意図で描いたのではないかと想いを馳せたり、時代背景を感じたり、同じ絵本でも見る人が違えば、着目点が異なったりと絵本の奥深さを感じました。絵本の新たな味わい方が学べて、とても有意義な時間になりました。（山口）

第2回　やってみよう！読み聞かせ

講師　永井美穂さん（左京図書館司書）　10月5日

読み聞かせ交流会の2回目は、まず「入門編」として、永井司書から読み聞かせの基本について教えていただきました。

どのような本が集団への読み聞かせに向いているのか、定番絵本を使って解説。遠くからでも見えるように、本の大きさだけでなく、描かれている絵自体の大きさと色調にも注意する必要があると分かりました。

また、見開きに2場面以上あるもの、例えば左ページに原因、右ページに結果が描かれている場合、ページをめくった時点で「オチ」が分かってしまうので、右ページはあらかじめ紙で隠すなどして、話の展開に合わせて絵を見せる工夫が必要とのこと。

下読みをしておくことが大切と話され、縦・横の向きが混在している絵本は、向きが変えやすいので右手で持つとか、絵と話の展開を合わせるために、本来書いてある場面より1ページ後に文章を読んでみるなど、工夫することができます。

聞き手と一緒に本の世界を旅するための「旅支度」を、読み手がきちんとしておく必要があると感じました。

（澤田）

第2回　科学絵本・科学読み物ブックトーク
地図はこんなにおもしろい～地図をもって出かけよう～

講師　島崎真紀子さん（京都科学読み物研究会会員）　10月5日

第２回の後半は、京都科学読み物研究会の島崎さんによる、地図に関する本のブックトークです。学校での読み聞かせで、一見難しく、似たように見える科学の本の魅力をどう伝えるかは、活動する人たち共通の悩みでしょう。

今回用意された地図に関する本のリストには、1970年代から2017年に出版されたものまで、33冊が並びました。科学技術の進歩は地図の世界をがらりと変え、古い本の中に「夢」として登場するカーナビも、現在では一般的に使われています。「地図のヒミツ」（田代博監修、実務教育出版、2017）では、デジタル地図のメリットだけでなく、デメリットも説明しています。

「地図がたのしくわかる本　全5巻」（清水靖夫・渡辺一夫著、ポプラ社、1989）は、地図とは何かをていねいなアプローチで語ります。著者のおふたりは、30年近く子供向けに地図の本を執筆されている「大御所」。地図の三原則である「縮尺・記号・高さ」を分かりやすく解説しています。

科学読み物に子供を引き付ける最大の武器は、実演や実験です。今回紹介された本に掲載の実験から、グレープフルーツを使った緯度経度の説明や、ボールに地図を貼り付けて地球儀になることを確認するといったものが実演されました。言葉や絵による説明では理解しきれない部分を補うために、実際に手を動かすことはとても大切だと分かりました。

調べ学習向けの科学読み物は、場所の限られた学校図書館などでは、良書でも古くなると廃棄されるケースも多いでしょう。図書館・図書室に関わる人たちが、良書を知り子供たちに紹介することで、書店には並ばない貴重な本を守ることができると感じました。（澤田）

第３回　小グループに分かれて絵本の読み語り実践交流

10月10日

９月から10月にかけて，左京図書館では「29年度　絵本読み聞かせ交流会（全３回）」を実施しました。小学校等で読み聞かせをされているボランティアグループの方々を中心に合計73名の方に参加して頂きました。

第３回めの最終日は３班に分かれ、各班で一人１冊ずつ絵本の読み聞かせをするワークショップ形式で、どの班も皆さん大変熱心にそして楽しい時間となりました。

メリーメリーへんしんする

ジョーン・G・ロビンソン作　小宮由訳
岩波書店　2017年

メリーメリーは、五人兄弟のすえっこの女の子です。いつもお兄ちゃんやお姉ちゃんにずるをされるけれど、こっそり、ちゃっかり、元気に楽しんじゃいます。しゃしんやさんで一人だけいい顔をしてうつったり、パーティーにこっそり出かけたりします。わたしのお気に入りの場めんは、メリーメリーがお店で色々なものを売っているところです。みんなはメリーメリーとは気づかず、「マフィンさん」だと思っていました。わたしと同い年ぐらいの子におススメです。

（小２・侑美）

私は久しぶりの読み聞かせ、それも大人の方ばかりの前でということもあり緊張しました。しかし、今まで読み聞かせをした時の緊張感とは少し違い、どきどきしながらもなんとなく心地よく感じたのは、とても温かく和やかな雰囲気だったからだと思います。それぞれ持ってきていただいた絵本には昔から定番とされている絵本やどなたも知らなかった絵本などがあり、さまざまな種類の絵本を選んで頂いてました。そして、何度も読んできた絵本でも誰かに読んでもらうことで新しい発見があったり、以前と違う印象だったりと改めて読み聞かせの楽しさや嬉しさを実感しました。

少人数のグループということもあって全員が活発に発言できたようで、新米の方はもちろんベテランの方からは「昔の子どもたちが好きな本は、今の子どもたちも大好き。絵本から子どもに伝わるものは昔も今も変わらないと思う。でも、時々自分のやり方や本の選び方などに、これでよいのかと不安になったり自信をなくしたり…このような他のグループの方たちのお話や様子を聞くことができる場がもっと欲しい。」との言葉があり、皆さん頷いておられました。

短い時間でしたが有意義な交流会になりました。来年もまた、多くの方たちと、そしてたくさんの素敵な絵本と出会える交流の場になればと思います。

（左京図書館・高見）

けやきの活動記録

2017年10月～2018年2月

2017
10/12　ニュースレター54号印刷・発送
　　2017年度活動方針・予算書2016年度会計決算書発送
11/上旬～
　　ニュースレター54号原稿作成・取材・編集
12/上旬～
　　図書館で発表会のチラシ配布
12/11　講演会打ち合わせのため、講師キム・ファン氏訪問
（石川・澤田・永井）
12/中旬～
　　チラシ作成等講演会の準備
2018
1/20　第17回「おとなのための語りを楽しむ会」開催
1/下旬～
　　「えほんのひろばinきょうと」準備
2/5　ニュースレター54号印刷・発送

<図書館おたのしみ会に協力>　（第4土曜）
　2017/10/28. 11/25. 12/23. 2018/1/27.

<絵本学習会>（第4金曜日、3.7.9月は第2金曜日）
　2017/10/27. 11/24. 12/8. 2018/1/26.

<事務局会議><図書館とのミーティング>　（主に第1月曜）
　2017/ 10/12. 11/6. 12/4. 2018/1/15. 2/5.

<「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター活動>
（毎週木曜日10:30―12:00）
　2017/10/5,12,19.26. 11/2.9.16.23.30. 12/7.14.21.
　2018/1/4.11.18.25.

お知らせ

左京図書館絵本学習会

と　き：毎月第４金曜　午前10～12時
（3月 7月 12月は第2金曜 ）
ところ：左京図書館の上階、３階会議室

テーマを決め、図書館から本を借りてその場で読み合っています。読んでもらう喜びが味わえ、新たな発見も生まれます。小学校でのおはなし会活動などの情報交換も。とっても楽しい集まりです。

どなたでも、どうぞ気軽に、ご参加ください。

絵本のひろば in きょうと

2018年度の「えほんのひろば in きょうと」（けやき主催）の日程が、4月15日（日）に決定しました！

会場は 左京図書館の上階、３階会議室です。

会場で紹介する絵本やプログラムについても検討中、たくさんの方に楽しんでいただける素敵なアイデアをぜひお寄せください。

もうひとつのワンダー

R・Jパラシオ作　中井はるの訳　ほるぷ出版　2017年

ベストセラー小説「ワンダー」のスピンオフ作品。生まれつき顔に異常のある10歳の男の子オーガストと、彼を取り巻く人々の物語。前作では、オーガストと彼を支える人が語り手となったが、今作は、いじめっこジュリアンなど3人の視点から描かれる。ジュリアンが語る物語を読むと、前作で彼をひとり悪役に仕立て上げることで、すっきりしていた自分に気づく。些細な出来事がきっかけで、一気に変わる10代の人間関係が、ドラマチックでリアルだ。

（会員・A.S.）

図書館友の会 けやき の仲間になりませんか

知りたい 調べたい 本の世界を楽しみたい

そんな私たちの望みをかなえ　一人一人の世界を豊かにしてくれる場所

それが私たちの願う図書館です

京都市左京図書館が市民みんなの図書館としていきいきとあり続けるために、私たち市民利用者は何ができるのか考え、活動したいと 1999 年に「けやき」を立ち上げました。図書館のスタッフとともに、左京図書館はじめ京都市図書館を支え、育てていきませんか。

次のような活動をおこなっています

であいの森

左京図書館のおたのしみ会（毎月第４土曜日 11:00）に協力。絵本を読んだり、ブックトーク・人形劇やおはなしも。

「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター

毎週木曜日 10:30 ～ 12:00、左京図書館絵本コーナーで絵本探しのお手伝いをしたり、絵本を読んだりしています。

誰もが利用できる図書館を考える

図書館の現状を調べ学び、図書館に提案をしています。

ニュースレター編集部

友の会のニュースレター「けやき」を作成し、図書館と利用者を結ぶけやきの活動の情報を発信しています。

事務局

けやきの活動の企画提案。図書館行事に企画･協力。各グループ間や左京図書館との連絡調整を行っています。

絵本学習会

毎月第４金曜日 10:00 ～。取り上げた絵本をみんなで読み合い語り合う楽しい学習会です。

講演会・学習会

主催または図書館との共催で年に数回、地元の講師を中心に様々な興味深い講演会・学習会を行っています。

◆入会希望の方は年会費 500 円をそえ、下記郵便振込口座にお申し込み下さい。

郵便振込口座　口座番号 00920-8-156914 番
口座名称　図書館友の会　けやき

◎年会費はニュースレターの印刷および郵送費の一部に充当します。
◎活動費の寄付も歓迎。直接又は上記の振込口座をご利用下さい。

けやき情報版

「すばこ・かやねずみ・ヤマネコ 子どもたちに生き物の話を届けたい」 キム・ファンさん講演会

2017年度の左京図書館・けやき共催講演会は、左京区在住の作家、キム・ファン氏を迎え、「すばこ・かやねずみ・ヤマネコ　子どもたちに生き物の話を届けたい」と題して、お話をうかがいます。

前半は小学生も楽しめる読み聞かせや紙芝居を中心に、後半は環境保護を訴え続けた作家人生や、日韓交流についてご講演いただきます。終了後、サイン会も行います。ぜひご参加ください。

日時：2018年2月17日（土）　午後1時30分～午後3時30分
会場：左京合同福祉センター3階会議室（左京図書館階上）
講師：動物児童文学作家・絵本作家　キム・ファン氏
定員：70名（事前申込制、定員になり次第締め切ります）
入場無料

申し込み：左京図書館カウンター備え付け申し込み用紙に記入または右記けやきホームページからお申し込みください。

編集後記

幼子を伴って遠路引っ越すと言う人に、落ち着いたら地域の図書館に行ってみて、と声を掛けました。図書館がその地を知る入口となり、本とも人ともよき出会いあれかしと。（島崎）

１月27日、正置友子氏の講演『戦前・戦中・戦後の絵本―あのころ、こんな子どもの本があった』（京都家庭文庫地域文庫連絡会主催）を聴講。特にスライドで見た、国や占領軍の検閲下、作者や出版界の自主規制の中で出版された戦中・戦後（1944～46）の絵本に、強い衝撃を受けた。10歳に満たない子どもたちも、絵本を通して時の権力の意向に支配されていたのだ。この講演会で紹介された資料は、戦前・戦中分は大阪国際児童文学館（現在は大阪府立図書館）、占領下分はアメリカ・メリーランド大学所蔵のもの。現在・未来を考え行動するには、過去の歴史に学ばなくてはならない。そのためには資料の収集・保存・公開が必須である事を、改めて強く思う。（永井）

◇けやき 第 55号　2018年 2月 5日
◇制作　図書館友の会 けやき　ニュースレター編集部
題字：吉政 冨美子　　デザイン：伊藤 理恵子
◇発行　図書館友の会　けやき
http://totomo-keyaki.com